

レクチャー '09
シリーズ

おさわがせ 美術史

逆転 発見 大事件

美術の歴史を見てみると、その時代の転換を象徴するような事件や、その後の美術の流れに大きな影響を与えた出来事がいくつも見られます。このレクチャーシリーズでは、そのような事件・出来事を4つの観点から取り上げ、その経緯や美術史上の意義などを説明します。

第1回 **1月21日(水) 19:00-20:30 (18:30 開場)**
大逆転: 展覧会では酷評を浴びた名作・巨匠たち

講師: 高柳有紀子 (大阪市立近代美術館建設準備室 学芸員)
近代美術では、今日では有名な芸術家や作品であっても、発表当初はその新しさゆえに酷評された、という例が数多くあります。第1回印象派展、フォーヴィスムの誕生など、当時は非難やスキャンダルの対象となった展覧会を紹介し、美術の先進性・前衛性と世評の関係について考えます。

第2回 **1月28日(水) 19:00-20:30 (18:30 開場)**
裸体は芸術か?—朝妝事件・腰巻事件からモディリアーニの個展まで

講師: 小川知子 (大阪市立近代美術館建設準備室 学芸員)
明治期に西洋美術が本格的に日本に流入すると、裸体芸術の受容や公開をめぐる事件がおきました。また西洋でも、モディリアーニの個展では、その挑発的な裸婦像が問題とされました。この回では、現在にも通じる裸体表現とその公開・検閲の問題を解説します。

第3回 **2月4日(水) 19:00-20:30 (18:30 開場)**
千円札裁判—オブジェとしてのお金・版画としての紙幣

講師: 清原佐知子 (大阪市立近代美術館建設準備室 学芸員)
1960年代、前衛美術家の赤瀬川原平は、紙幣を精巧に模した作品や印刷物を制作しますが、警察に摘発され裁判となりました。この回ではこの「千円札事件」を中心に、複製技術の発達と芸術の関係、オリジナルとコピーをめぐる問題、貨幣価値と芸術的価値などについて解説します。

第4回 **2月18日(水) 19:00-20:30 (18:30 開場)**
発見・発掘・再評価: 見出された美 / 忘れられていた名作

講師: 菅谷富夫 (大阪市立近代美術館建設準備室 主任学芸員)
岡本太郎による「縄文の美」の発見や、柳宗悦らによる「民芸」の発掘・再評価などを例に、これまで芸術と思われていなかったものに芸術性を見出すことや、長い間忘れられていた作品・芸術家への再評価について考察します。

聴講
無料

定員: 各回 60名程度 (当日先着順)
お申し込みやご予約の必要はありません
当日直接会場にお越しください

※レクチャー当日、展覧会は開催しておりません。また、開場時間前に会場に入ることはできません。
※2月11日(水・祝)はレクチャーを開催しておりません。ご注意ください。

レクチャー会場

大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室

大阪市中央区南船場3-4-26 出光ナガホリビル13階(旧出光美術館大阪)
地下鉄「心斎橋」駅(御堂筋線/長堀鶴見緑地線)下車約260メートル、または、「長堀橋」駅(堺筋線/長堀鶴見緑地線)下車約290メートル(地下街クリスタ長堀 北7番または北5番出口すぐ)

お問い合わせ

大阪市立近代美術館建設準備室
TEL 06-6615-0654 (月~金/9:00~17:30)
TEL 06-6241-5173 (展覧会期中の土日祝/11:00~19:00)

